

若者の意見を地域づくりにいかしたい

萩里音

「若者の投票率が低い」。

この言葉を聞くと、このままで将来大丈夫なのかと不安な気持ちになります。少子高齢化が進み、若い世代の意見がもっと政治に反映されるように、選挙権年齢が引き下げられました。しかし、投票率はのびていません。期日前投票の利用の促進、SNSの活用などいろいろな工夫はされていますが、未

来を担う若い世代の意見が政治に届きにくくなっています。

私は、有権者になったら、選挙に行きたいと思っています。それは、自分の未来のためや子どもたちのために、よりよい社会をつくる一員になりたいからです。ですが、絶対に行くとは言い切れません。なぜなら、政治のしくみや誰がどのような政策をしているのか、政治に関して全く知識がありません。友達と選挙の話をしてても、誰が何をしているのか分

らない、投票して何か変わるのかなど、政治に
関してあまり興味がない人が多いように感じ
ます。このように感じるのは、若者に公約
が届いていないことや、投票する意味や良さが
分かっていないからだと思います。大人は
若者に「選挙に行こう」と呼びかけをしてい
ますが、政治のしくみやどこに注目して選ぶ
とよいのか本質的なことを教えてくれる人は
ほとんどいません。なので、主権者教育を充
実させ、小、中学生の頃から選挙のしくみや
社会問題について学び、一人ひとりが社会の
一員だということを実感できるように教育を
すべきです。

私は、高校生の声を地域づくりに活かすこ
うテーマで探究活動を行っています。その
一環として、いろんなアイデアや思いが集ま
る都城万博を開催しました。一回目は市内の
高校の生徒会役員、市議会議員さんが集まり、
自分の高校の未来、都城の未来についてプレ
ゼンしました。その後、グループをつくり高

校生と議員さんで、意見交換会をしました。

「都城をもっとこうしたい」「バスの本数を増やしてほしい」「遊び場所や勉強できる場所がほしい」など高校生の視点でいろんな意見がでました。意見交換のあと、議員さんから

「私たちが気づいていない高校生の視点や地域の不便さを教えてもらえて、とても参考になりました。」

と言っていたきました。そして先日、二回

目の都城万博を南九州大学で行いました。高校生に加えて、大学生、中学生も参加し、より多くの人と未来に向けて考えを交換しました。この都城万博を通して、議員さんとの信頼関係や、政治に対しての興味も高まり、議員さんと若者が一緒になって主体的に地域を良くしていこうと取り組んでいくことは、これからの私たちにあって大事なことだと思います。市議会議員の方だけではなく、県議会議員、国会議員の方々との交流も増やしてい

すば、もっ^と選挙というものが身近に感じる
ことができると思います。

また、私は選挙啓発ボランティアにも参加
しました。イオンの前でチラシやティッシュ
を配りながら、

「投票おねがいします」。

と呼びかけました。笑顔で

「ありがとう。投票してきたよ」。

と言ってくださる人モいれば、無視をされる

ことも多かったです。若い人達に無視される

ことが多く、若者が政治に興味をもっ
ていな
い傾向があることを肌で感じました。一人で
も多くの人に選挙に行っ
てもらいたいと思い、
一人ひとりに声をかけ続けました。

若者がこうして地域の課題に関わり、自分
から行動すること、が、少しずつ社会を変える
力になると感じます。全ての若者が選挙に興
味が無いというわけではありません。地域を
もっ^と良くしたい、日本をもっ^と住みやすい
国にしたい、と思っ
ている人はたくさんいる

と思います。一人ひとりの良くしたいという
気持ちが集まればすごく大きなものとなり、
日本は変わっていきけると思います。未来の自
分たち、子どもたちのために住みやすい場所
に進化していくことを願っています。

私はこれから、地域の一員として自分の
考えを発信し続けたいと思います。若者の声
が地域に届き、誰もが住みやすいまちをつく
ることができるよう、行動を続けていきたく
います。